子ども霞が関見学デー

「子ども霞が関見学デー」は霞が関一帯で各府省庁等が連携して毎年開催しているイベント。今年は7月29日（水）、30日（木）に開催した。26府省庁等が、その仕事と役割を楽しく理解してもらえるよう、さまざまな工夫を凝らした各種体験プログラムや職場見学を通じ、子どもたちが広く社会を知る体験機会を提供。

国土交通省では館内のフロアと地下、屋上を活用して全23プログラムを用意。過去最高の3,200人を超える参加者があった。

国土交通省 子ども霞が関見学デーの詳細はこちら
http://www.mlit.go.jp/kids/index.html

MLIT 体験レポート

子ども霞が関見学デー

ゲスト 小笠原舞さん 小竹めぐみさん
（合同会社こどもみらい探求社 共同代表）

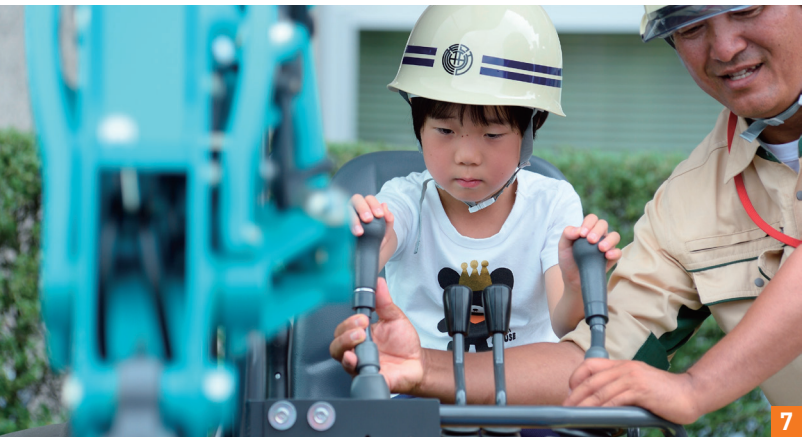
毎年夏休みの時期に、各府省庁等が連携して子どもたち向けに開催するイベント「子ども霞が関見学デー」。その国土交通省の催しを、保育士であり、起業家でもある小笠原舞さんと小竹めぐみさんに体験していただきました。

国土交通省の仕事って、こんなに身近なものなんだなと感じました。いつも当たり前に過ごす道路や公園で、これまでは「虫がいた」とか「きれいなお花が咲いていた」とか、そういうところは見ていましたが、「これを誰がつくっているのか」「どんな思いでつくったのか」というのは全然想像できていませんでした。実際に仕事に関わる方から話を聞いたことで、今日学んだものだけではなく、普段見るものでも「これはどうかな？」と、日常の暮らしの中でも疑問を持つ視点が入ってくるのを感じ、日常の当たり前のことに感謝できる機会になりました。

出展では、海上保安庁のブースに階級章が並んでいたのが印象的でした。海上保安庁の方と「僕はまだこの階級ですよ」とお話をして、距離が縮まったというか。まったく知らない世界でしたが、事故が起きたときに、この人たちが一生懸命人を助けに行っているんだと思うと、もっと話を聞きたくなりました。

子どもたちは、目をキラキラと輝かせて、とても真剣な顔をしていました。子どもたちがここで体験したことを、ずっと興味を抱き続けるかは分からないけれど、左官職人さんに直接教えてもらえた経験や、そのときやりたいと思ったことは、きっと未来につながっていくんだろうなと思いました。（小笠原さん・談）

海上保安庁のブースにて。背後には階級章のサンプルが並ぶ。



1 国土交通省の地下を探検。大地震から建物を守る免震施設を知るツアー。
2 屋外の体験プログラムも人気。高所作業車は5階分の高さまで上昇。
3 屋上緑化施設でさまざまな環境対策を学べるプログラムも人気。
4 太田大臣へ直接質問。　子どもならではの鋭い質問も飛び出した。
5 日本列島を触って感じることができる3Dの都道府県地図パズル。
6 フライトシミュレーターでは本物のパイロットと一緒に操縦体験。
7 本物のパワーショベルで操作体験。

参加前は、国土交通省が子ども向けにどんなことをやるのか想像がつきませんでした。実際に参加させていただき、保育士としてうれしかったことがありました。実に多様なプログラムが用意されていて、説明を聞きたい子は説明を聞くし、色塗りをしたい子はずっとそれに集中している…子どもはいろんなやり方で物事を吸収していきますが、その選択肢が多かったのがすごくいいなと思いました。

実際に仕事をしている人に出会えるのもいいですね。最近は「職業体験」などの機会も増えていますが、やはり本物に勝るものはありません。屋外の高所作業車に乗ったとき、子どもたちに「こういう仕事があるって知ってた？」と聞くと、「電柱で何かしているのは見たことあるけど、あまり知らなかった。なんかカッコイイ」と話してくれました。対応する職人さんたちの表情もどこか誇らしげでうれしそうで。学校でも知識としてはもちろん学びますが、文字で知るのと、今日のように実際に「感じる」ことは大きく違います。子どもたちは、実際の出会いを通して憧れの気持ちを抱きます。その「憧れる気持ち」がいろんな可能性につながることを考えると、こうした出会いは本当に大切だと思います。私自身も今回さまざまな方に出会えて「もっと知りたい！」という気持ちがあふれる感覚を久しぶりに味わえた気がします。（小竹さん・談）

この2日間は屋上の食堂に特別メニューのお子さまランチが登場。

小笠原舞（おがさわらまい・左）
小竹めぐみ（こたけめぐみ・右）

平成22年から園を超えて活動を続け、平成25年には合同会社こどもみらい探求社を設立。保育士として社会全体をフィールドにしながら、さまざまな企業や家族と共に“こどもにとって本当にいいモノ・コト・ヒト”を、時代に合わせて形にしている。